

こども委員会のよりみちコラム

今回の担当：村松 海輝

書いた日：2024年7月10日

皆さん、こんにちは。日に日に蒸し暑さが増しており、出勤するだけで汗だくになっている岩手県立療育センターの村松です。7月のコラムは私が担当します。私は発達領域のおすすめの本についてお伝えしたいと思います。

1冊目はメディカルビュー社の「発達OTが考える 子どもセラピィの思考プロセス」です。2冊目はクリエイツかもがわの「乳幼児期の感覚統合遊び 保育士と作業療法士のコラボレーション」です。3冊目もクリエイツかもがわの「みんなでつなぐ読み書き支援プログラム」です。1冊目はこの本に出会えて私の発達領域における作業療法の1歩を踏み出せたと言っても過言ではないくらい大切にしている本です。日々の臨床で子どもに向き合っていると「この支援は本当に子どもたちや支援者様のためになっているのか」「子どもの目線で考えられているか」などと悩みます。そのような時はこの本を読み、思考を整理することを繰り返しています。2冊目と3冊目は日々の臨床に役立つ沢山のアイデアが書かれており、臨床で疑問に思ったことや多職種の方から相談を受けた際に紹介することが多い本です。これから発達領域に関わりたいと考えている先生方には一読していただくと参考になると思います。

昨今の発達領域における作業療法士の職域拡大は急激に進んでおり、働き方も大きく変化しています。私のように医療として子どもに関わる作業療法士のみではなく、児童発達支援や放課後等デイサービスに勤めて福祉に関わる作業療法士、行政機関に勤めながら子どもに関わる作業療法士およびコンサルタントを軸にしている作業療法士などがいます。どんな場所で働いていても子どもたちに作業療法士として関わっている以上は「主役は子どもたち」です。そのため、「あそび」を追求し、子どものために一緒にヨコナラビの支援をしましょう。

最後になりますが、今回紹介した1冊目の本を編集しているHON@ASI.代表 小松則登氏（公的所属：愛知県医療療育総合センター中央病院）を講師としてお呼びし、研修会を開催いたします。9月22日（日曜日）いわて県民情報交流センター（アイーナ）で行う予定です。ご興味がありましたら、詳細は後日県士会のHPに掲載するため、ご確認ください。

